

せたな



【特集】大成高校閉校／地域と共に59年ありがとう大成高校
せたな町給与状況公表
【シリーズ脱メタボへの道】最終回



地域と共に59年 ありがとう大成高校

旧大成町教育委員会は、学校・PTA・地域住民の皆さんと共に大成高等学校の存続についての検討を重ね、3町合併を控えた平成17年5月18日、「平成18年度入学者募集停止、平成19年度閉校」を決定しました。それから約3年の歳月を経て、ついに閉校の時を迎えようとしています。

今月号では、学校の歴史や思い出、地域と共に歩んだ59年間を振り返ってみました。



■大成高等学校誕生

大成高等学校は、働く青少年の教育のために、地域住民の期待を集めて昭和24年、久遠小学校校舎の一部を間借りして、定時制（水産科）の今金町立北海道今金高等学校久遠分校として誕生しました。その後、昭和25年に組合立北海道北檜山高等学校

久遠分校、昭和26年に北海道立北海道北檜山高等学校久遠分校、昭和27年には北海道立北海道東瀬棚高等学校久遠分校と名称が変わり、昭和27年11月久遠村立久遠高等学校として分離独立。昭和30年、現在の北海道大成高等学校と改称されました。

■水産科から普通科へ そして定時制から全日制へ

昭和34年、独立校舎が竣工し、現在位置（大成区都421番地）に移転されました。この年、同窓会より校旗が寄贈され、翌年、作詞吉見久氏、作曲林喬木氏による校歌が制定されました。地域の強い要望と時代背景から昭和38年、水産科から普通科へ学科転換され、そして開校以来、働きながら学ぶ者のための夜間定時制として発展してきた大成高校は、昭和56年、定時制から全日制へ課程変換されました。

■燻製加工技術で地域産業 の振興に深く貢献

昭和51年、水産一般の実習として、ホッケ燻製作業を開始。製品は大好評で注文が殺到し翌昭和52年には、校舎内に燻製加工室が竣工されました。昭和53年には、燻製加工実習用真空包装機も導入され、高校の画期的な取り組みに地域の期待も大きく、地域産業の振興に深く貢献してきました。

■郷土愛を育む特色ある教育活動

◆交通安全宣言強歩マラソン大会
昭和57年に熊石↓大成高校間

- S23.11.25 北海道今金高等学校久遠分校として設置認可
- S24. 4.10 開校式兼第1回入学式（久遠小学校にて）
- S27.11. 1 久遠村立久遠高等学校として独立
- S30.12. 1 北海道大成高等学校と改称
- S34. 3. 5 独立校舎第1期工事竣工、現在位置に移転
- S38. 4. 1 水産科から普通科へ学科転換

大成高等学校 沿革史

開校してからの
59年間



↑昭和35年頃、旧校舎



思い出を振り返るインタビュー

定時制第1期 佐藤 節夫さん

昭和24年、今金高等学校久遠分校として発足し、第1期生として入学しました。当時は、今金本校からの先生方の都合や交通の便、又、北電の電力不足などで授業は自習や代替の先生でした。先生方も大変苦労されたと思います。私も働きながら夜間通っていたので楽しい思い出よりは、とても大変だったことが思い出されます。その中でも、やはり一番の思い出は、修学旅行だったと思います。連絡船で津軽海峡を初めて渡り、青

森から上野行き列車に乗り、夜明け上野駅に到着し、朝食を取って都内見学に出かけ、見るものすべてがおどろきでした。

1泊して大阪、京都、奈良と見学し、その中でも印象に残ったのが、大阪城のすばらしさと甲子園球場で見た初めてのプロ野球でした。とても楽しい修学旅行でした。当時は何かと大変でしたが、今思うとみんな仲良く頑張ったと思います。最後になりますが、大成高校を卒業できた事に感謝します。

◆遠泳大会
郷土の自然に親しむことにより、郷土愛を育てるとともに生徒自らの体力や状況に応じた判断力を養うことを目的として、昭和59年から始まった遠泳大会は、小歌海岸から小歌岬までの約1kmを泳ぐもので、地元での美しい自然を活用した伝統行事です。平成5年の北海道南西沖地震の年に津波の恐れがある

17kmから始まった交通安全宣言強歩マラソン大会は、体力と精神力を育み、交通安全意識の涵養を目的とした伝統行事。翌昭和58年には、北檜山町駅前↓大成高校間34km、昭和59年には瀬棚駅前↓大成高校間42kmとなり長年定着してきましたが、平成18年から安全確保のための教員数が足りないため、コースを変更して大成高校からあわび山荘を折り返す約30kmとなりました。悪天候のため中止になった年もありましたが、26年間地域の声援を受けながら受け継がれ、財団法人北海道交通安全推進委員会より交通安全運動推進実践活動表彰を2回受賞。交通安全功労団体として北海道交通安全協会会長表彰も受賞しています。

思い出を振り返るインタビュー

全日制第5期 越前 朋美さん (旧姓長門)



大成高等学校が、閉校になってしまうのは本当に残念なことではありません。

私が在学していた頃の校舎は木の廊下と階段で、冬の寒い日には教室のストーブを囲み、みんなで話をした事など、今思い出すと何もかもが懐かしいです。

色々あった学校行事の中でも、強歩マラソンが一番辛く大変でしたが、今となっては良い経験となり思い出の一つとなっています。



↑昭和49年頃、旧校舎

S56. 4. 1 定時制から全日制へ課程変換、校訓を制定

S59. 4. 1 全日制課程普通科単置校として発足

H 7.10.14 校舎改築落成記念式典挙行

H17. 8. 2 平成18年度入学者募集停止が決定

H20. 2. 9 閉校記念式典並びに感謝の集い

H20. 3. 1 第26回卒業式





↑平成15年、全国福井大会の様子

思い出を振り返るインタビュー

全日制第12期 須藤 美穂子さん (旧姓秋山)

私の大成高校の思い出は、全国大会にも出場した久遠神楽です。

1年生の時、久遠神楽を始め、全国大会(沖縄開催)や全道大会など、色々な舞台で、緊張しながら踊ったことを思い出します。

大成高校が閉校となるのは、とてもさみしく、残念に思いますが、3年間お世話になりましたと、感謝したいです。



ため中止した以外は毎年行われ、これまで23回開催されました。地元漁業者が2隻の船を出したり、教職員と一緒に伴泳するなど生徒の安全は地域住民ががちりサポート。夏の名物としてH T Bテレビ「ニュースロータリー」やS T Vラジオ「奥山コウシン」で全道放映されました。

◆伝統芸能「久遠神楽」

久遠神楽は、笛を吹く人たちを中心に周りを太鼓、なぎなた、刀などを持った人が豊年、除災を願って踊る郷土芸能。

明治30年頃、青森県三本木町字切田(現在の十和田市)から練(にしん)漁のために移住してきた久保金治さん、荒谷政次郎さんが遠く故郷をしのび、地元青年団に故郷の踊りを教えたのが起源とされています。2人の青年が、「南部藩」出身であったことから、しばらくの間は「南部神楽」と呼び親しまれてきましたが、大成での継承と保存という観点から昭和52年「久遠神楽」に改められました。

本校では、平成元年より久遠神楽保存会の指導を受けながら、郷土芸能継承活動に取り組

み、厳しい自然環境で生き抜いた100年前の先人たちの開拓者魂を胸に刻み込んできました。その間、文化のインターハイとも呼ばれる全国高校総合文化祭にも5回出場し、文化連盟賞を受賞しています。

新入生の募集停止に伴い、必要な人数がそろわなくなったため、平成17年の町民文化祭で披露したのを最後に活動を停止し、平成18年度から大成中学校が継承活動を引き継いでいます。

■探究・真心・実践の校訓のもと1,262人の生徒が巣立つ

安全教育研究・情報教育研究・新聞記事データベース研究など様々な研究実践校の指定を受けるなど、地域・学校が一体となった教育活動が展開されてきました。部活動も盛んで特に陸上競技の円盤投げやハンマー投げでは、全国レベルで活躍する選手も輩出。「探究・真心・実践」の校訓のもと、地域社会との融合を図り、地域全体で育んだ1,262人の生徒達は、在学中も今日まで活躍しています。



頃、遠足の様子



↑昭和36年、修学旅行の様子



↑昭和40年頃、仮装行列の様子



↑昭和42年頃、生徒総会の様子



↑昭和52年頃、卒業式の様子



↑平成5年頃、遠泳大会の様子



↑平成10年頃、久遠神楽の練習風景

■ひとつの歴史が終わる時、
 そして受け継がれゆくもの
 59年前、子供たちのために創られた学校は今、子供たちの事を考えればこそ、その役割を終えようとしています。子供たちが十分満足できる教育環境の確保のための手段として避けては通れない道だったのです。
 昨年行われた最後の学校祭「久遠祭」では、地域への恩返しとしてテーマを「感謝」とし、生徒たちは模擬店やフリーマーケットなどで心を込めたおもてなしをしました。地域からも父兄の方々をはじめ、まちづくり会議の皆さん、役場青年クラブ、久遠郵便局、大成教育事務所、地元やOBの有志の惜しみない協力のもと、300人以上が訪れました。まさに「地域から学び地域に貢献する精神」という59年間の活動の原点である姿がそこにありました。
 地域ぐるみで温かく育んだ大成高校。久遠村・大成村・大成町・せたな町という町の歴史と共に歩んできた59年間。その「地域から学び地域に貢献する精神」はこれから巣立つ子供たちにも受け継がれてゆくことでしょう。

思い出を振り返るインタビュー

最後の卒業生の皆さん



金子 猛さん

素晴らしい先生方に恵まれ、多くの資格をとれたのはやはり大成高校に通ったお陰だと思っています。閉校になるのは寂しい気がするけど、今まで町民のみなさんの協力でたくさんの方ができた事をとても感謝しています。

佐藤 祐太さん

伝統芸能である久遠神楽をやれたということは、この高校に入学して1番印象深いことでした。誰もが体験できることではないので誇りに思います。そして数々の行事がありましたが、地域の方々の支えがあって出来たことだと思います。今までありがとうございました。

杉村 茉有子さん

これから看護師を目指して大成を離れることとなりますが、お盆やお正月に帰省したとき自分の母校がないのがとても悲しいけれど、今まで行事の度に協力し、支えてくれた地域の人達のために、この先自分にできることがあれば協力したいです。

手塚 拓さん

数ある行事の中で、最後のマラソン大会は特に思い出深いです。先生方や地域の皆さんのお陰で完走することができてとても感謝しています。人との触れ合いを学べたことをいかしてこれからも頑張ります。先生たちもこの大成高校にいたことを忘れないで頑張ってください。



最後の恩師の皆さん

↑昭和25年

せたな町給与状況公表

せたな町人事行政の運営等の状況の公表に関する条例に基づき、せたな町職員の給与等について、町民の皆さんに広くお知らせします。なお、町職員の給与については、地方自治法や地方公務員法に基づき国家公務員に準じた制度となっており、町議会の議決を得て町条例で定めています。

財政健全化に向けて人件費の削減に取り組んでいます

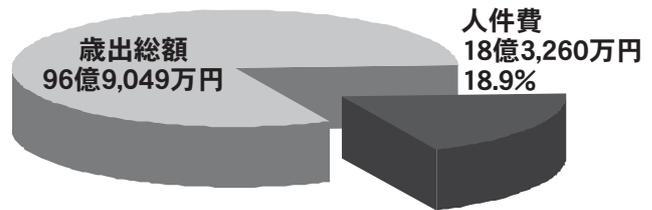
平成19年度 人件費削減内容

- 管理職手当／課長 8%→4%／補佐主幹 6%→3%
- 役職加算／支給ゼロ
- 寒冷地手当／支給ゼロ
- 期末勤勉手当0.55月減

●人件費の状況（平成18年度普通会計決算）

歳出総額	人件費	人件費率
96億9,049万円	18億3,260万円	18.9%

※人件費には、町長などの特別職の給与、議会議員の報酬、職員の給与共済費等が含まれます。



●職員給与費の状況（平成18年度普通会計決算）

職員数（A）	給与費				一人当たり給与費 （B/A）
	給料	職員手当	期末・勤勉手当	計（B）	
218人	8億5,962万円	1億641万円	2億9,294万円	12億5,897万円	578万円

※職員手当には退職手当を含みません。※職員数は、平成19年4月1日現在の人数です。

●職員の初任給の状況（平成19年4月1日現在）

区分	せたな町		国
	大学卒	高校卒	
一般行政職	170,200円	138,400円	170,200円
			138,400円

●職員の平均年齢及び平均給与月額状況

区分	せたな町		国
	平均年齢	平均給与月額	
一般行政職	42.7歳	343,100円	40.7歳
			383,541円

（平成19年4月1日現在）

●職員の経験年数別・学歴別平均給料月額状況（平成19年4月1日現在）

区分	経験年数		
	10年	15年	20年
一般行政職	262,000円	289,000円	390,800円
	228,100円	261,200円	304,500円

●職員手当の状況

①期末手当・勤勉手当（平成19年4月1日現在）

区分	せたな町
期末手当	2.45月分 (3.00月分)
勤勉手当	1.45月分
その他の加算措置	職制上の段階、職務の級等による加算措置 ・役職加算0% (役職加算4~10%)

※（ ）内は、減額措置前の支給割合です。

②退職手当（平成19年4月1日現在）

区分	せたな町	
支給率	自己都合	勸奨・定年
勤続20年	23.50月分	30.55月分
勤続25年	33.50月分	41.34月分
勤続35年	47.50月分	59.28月分
最高限度額	59.28月分	59.28月分
その他の加算措置	・定年前早期退職特例措置 (2~30%加算) ・勸奨退職の場合は、退職時特別昇給(8号俸)	

③扶養・住居・通勤・管理職手当（平成19年4月1日現在）

手当名	内容及び支給単価	手当名	内容及び支給単価
扶養手当	①配偶者／月額13,000円 ②配偶者以外の扶養親族／月額各6,000円 ・職員に扶養親族でない配偶者がいる場合は、そのうち1人については6,500円 ・職員に配偶者がいない場合は、そのうち1人については11,000円 ③扶養親族たる子のうち満15歳に達する日後の最初の4月1日から満22歳に達する日以後の最初の3月31日までの間 ・月額5,000円加算	通勤手当	①交通機関等の利用者 ・1ヶ月当たりの運賃等相当額（55,000円を限度に支給） ②自動車等の交通用具使用者 ・片道2km以上の通勤距離に応じた月額を毎月支給（2,000円～24,500円）
住居手当	①借家及び借間 （家賃の額が月額12,000円を超える場合） ・家賃が月額23,000円以下の場合 家賃の月額から12,000円を控除した額 ・家賃が月額23,000円を超える場合 家賃の月額から23,000円を控除した額の2分の1を11,000円に加算した額 （控除した額の2分の1が16,000円を超えるときは16,000円） ②自宅の場合 ・5,000円	管理職手当	①役職に応じ支給 （給料月額×支給割合） ・1種 100分の15 ・2種 100分の12 ・3種 100分の4（100分の8） ・4種 100分の3（100分の6） ※（ ）内は、減額措置前の支給割合です。

●特別職の給与等の状況（平成19年4月1日現在）

区分	給料	期末手当	その他の加算措置
町長	690,000円	3.90月分 (4.40月分)	役職加算 0% (15%)
副町長	552,000円		
教育長	506,000円		
区長	487,000円		

※（ ）内は、減額措置前の支給額・割合です。

●議会議員の報酬等の状況（平成19年4月1日現在）

区分	給料	期末手当
議長	223,000円	3.90月分 (4.40月分)
副議長	180,000円	
常任委員長	166,000円	
議会運営委員長	166,000円	
議員	156,000円	

※（ ）内は、減額措置前の支給割合です。

●一般行政職の級別職員数の状況

区分	標準的な職務内容	職員数	構成比
6級	課長、参事	29人	17.3%
5級	課長補佐、主幹	29人	17.3%
4級	主幹、係長	25人	14.9%
3級	係長、主任	61人	36.3%
2級	主事、技師	16人	9.5%
1級	主事、技師、主事補	8人	4.8%

（平成19年4月1日現在）

※せたな町の給与条例に基づく給料表の級区分による職員数です。

※標準的な職務内容とは、それぞれの級に該当する代表的な職務です。

■問い合わせ先

総務課総務係〔担当／樋口・斎藤〕

☎0137-84-5111

●部門別職員数の状況（各年4月1日現在）

部門	区分	職員数		対前年増減数
		平成18年	平成19年	
普通会計部門	議会	3人	2人	△1
	総務	55人	47人	△8
	税務	8人	9人	1
	農水	29人	26人	△3
	商工	3人	7人	4
	土木	15人	12人	△3
	民生	50人	48人	△2
	衛生	15人	16人	1
	計	178人	167人	△11
	教育部門	53人	52人	△1
小計	231人	219人	△12	
公営企業等会計部門	病院	71人	69人	△2
	水道	5人	4人	△1
	下水道	4人	3人	△1
	その他	13人	12人	△1
	小計	93人	88人	△5
合計		324人	307人	△17

※職員数は一般職に属する職員数です。

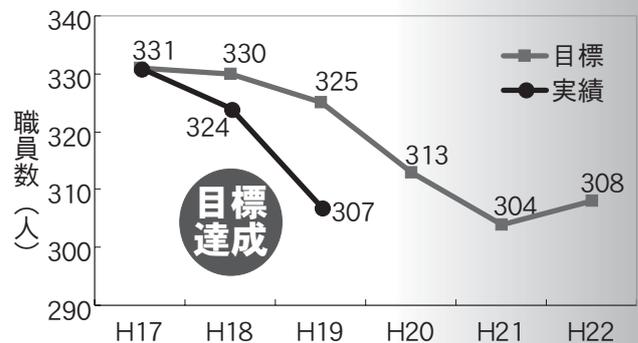
定員適正化計画の進捗状況

平成17年3月に策定した定員適正化計画（平成18年5月号でお知らせ）の進捗状況をお知らせします。

■数値目標

平成17年4月1日 職員数	平成22年4月1日 目標職員数	純減数	純減率
331人	308人	△23人	△6.9%

計画期間：平成17年4月1日～平成22年4月1日



■進捗状況（実績）

区分	平成18年4月1日 職員数（A）	平成19年4月1日			
		目標値（B）	実績（C）	増減（C-B）対目標	増減（C-A）対前年
一般行政部門	178人	180人	167人	△13人	△11人
特別行政部門	53人	52人	52人	0人	△1人
公営企業等会計部門	93人	93人	88人	△5人	△5人
合計	324人	325人	307人	△18人	△17人

- ①前年との比較／△17人（H18年4月1日職員数324人に対しH19年4月1日実績307人）
 ②目標値との比較／△18人（目標値325人に対し実績307人）目標を上回っています。
 増減の理由については以下に示します。

■増減の理由（部門別）

区分	増減	増減理由	
		（増員）	（減員）
一般行政部門	△11	●行政職3名採用 ●保育士1名採用 ●人事異動に伴う増2名	●行政職4名定年退職●行政職7名退職 ●行政職1名派遣●保健師2名退職 ●保育士1名退職●人事異動に伴う減2名
特別行政部門	△1	●高校教員4名採用 ●人事異動に伴う増2名	●行政職2名定年退職 ●高校教員5名退職
公営企業等会計部門	△5	●看護師2名採用	●行政職1名退職 ●看護師4名退職 ●人事異動に伴う減2名

●一般行政部門

- ①前年との比較／△11人（H18年4月1日職員数178人に対しH19年4月1日実績では167人）
 ②目標値との比較／△13人（目標値180人に対し実績167人）目標を上回っています。
 ■主な増減理由／自己都合による中途退職や職員の定年退職による減が大きな要因となっています。

●特別行政部門（教育委員会、高等学校等）

- ①前年との比較／△1人（H18年4月1日職員数53人に対しH19年4月1日実績では52人）
 ②目標値との比較／±0人（目標値52人に対し実績52人）目標と同数となっています。
 ■主な増減理由／職員の定年退職による減を異動により補充したため増減がなしとなっています。

●公営企業等会計部門（病院等）

- ①前年との比較／△5人（H18年4月1日職員数93人に対しH19年4月1日実績では88人）
 ②目標値との比較／△5人（目標値93人に対し実績88人）目標を上回っています。
 ■主な増減理由／自己都合による行政職や看護師の中途退職による減が大きな要因となっています。

■問い合わせ先 政策調整課まちづくり推進係〔担当／吉田〕 ☎0137-84-5111



ライフジャケットの着用が義務付けされます。

平成20年4月1日から、1人乗り小型漁船のライフジャケットの着用が義務付けされます。

■1人乗り小型漁船での船外転落事故が多発していることから、船舶職員及び小型船舶操縦者法施行規則が改正され、平成20年4月1日から、携帯電話等連絡手段の確保の有無にかかわらず、航行中かつ漁ろう中の小型漁船に1人で乗船される方には、ライフジャケットの着用が義務付けされます。

■これに違反した場合、6ヶ月以内の免許停止等の処分の対象となり、再教育講習を受講していただくことになります。

■不慮の事故に備え、漁ろう中に限らず日頃からライフジャケットの着用を心がけてください。

問い合わせ先

国土交通省海事局ライフジャケットトップページ
<http://www.mlit.go.jp/maritime/lifejacket/index.html>

北海道運輸局函館運輸支局
 ☎ 0138-42-5738

4月1日から 役場でパスポートの申請・受取ができます！

これまで檜山支庁に出向かなければならなかったパスポート（旅券）の申請や受取りが、4月からは役場の窓口でできるようになります。



申請する場合（せたな町に住民登録している方）

■申請する場所

- ・本庁町民児童課戸籍年金係
- ・瀬棚総合支所総務税務課戸籍年金係
- ・大成総合支所町民福祉課戸籍年金係

■必要なもの

- ①一般旅券発給申請書（役場窓口に用意してあります）
- ②パスポート規格の顔写真
- ③官製はがき（未使用のもの）
- ④戸籍謄（抄）本（本籍地の市町村窓口で取得してください）
- ⑤前回取得した旅券（有効期限内の旅券をお持ちの方は、有効旅券を提出しないと申請できません。失効している場合もお持ちください）
- ⑥印鑑（朱肉を使用するもの、認印で可）
- ⑦本人確認書類（運転免許証など）

※代理人による申請を希望される方は、必ず申請者本人が記入しなければならない欄がありますので事前に申請用紙を入手してください。
 ※代理人による申請をされる場合は、申請者本人と代理人の方それぞれの「本人確認書類」と「印鑑」が必要です。

受け取る場合（必ずご本人でなければなりません）

■受け取る場所

- ・本庁町民児童課戸籍年金係
 （パスポートの受け取りは総合支所では出来ません）

■必要なもの

- ①一般旅券引換証
- ②郵送されて来たはがき
- ③手数料（収入印紙・収入証紙）
- ④印鑑（認印で可）

■問い合わせ先

- ・本庁町民児童課戸籍年金係 ☎ 0137-84-5111
- ・瀬棚総合支所総務税務課戸籍年金係 ☎ 0137-87-3311
- ・大成総合支所町民福祉課戸籍年金係 ☎ 01398-4-5511